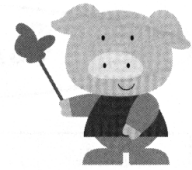


養豚における未利用資源活用の試み

—— 福島県畜産試験場 ——



平成17年10月20日から21日にかけて、山形県鶴岡市にて、第84回日本養豚学会大会が開催されました。

学会では、豚の改良や環境への負荷軽減などの様々なテーマで、多くの興味深い研究発表が行われました。その中でも、人間が利用していない資源、いわゆる未利用資源を豚に給与する試みについて4課題もの研究発表が行われました。また、パネルディスカッションでは、余剰生産物となっている米を、豚の飼料として利用する試みについて検討が行われました。

平成13年5月に「食品循環資源の再生利用等の促進に関する法律」が施行され、また、今後の畜産のあるべき姿として資源循環型畜産が望まれる中、これらの試みは今日的な意義が高いと思われましたので、紹介いたします。

○リサイクル飼料の利用

「食品循環資源醗酵乾燥飼料の給与が肉豚の発育・肉質に及ぼす影響」

日本大学生物資源科学部、㈱中央カンセーリサイクル飼料（内訳：パン屑42%・米28%・野菜屑15%・乾燥豆腐粕10%・魚5%）だけを豚に給与し、体重30kgから105kg到達までの間、肥育した。リサイクル飼料を給与した豚群は通常の飼料を給与した豚群に比べて、飼料摂取量が約2/3程度に低下し、日増体量も約1/2となり、肥育期間が大幅に延長した。しかし、リサイクル飼料のコストは通常の飼料と比較して、約1/2程度に抑えられ、また、リサイクル飼料給与豚の枝肉は筋内脂肪が極めて豊富であり霜降り肉状態を呈した。

○産業廃棄物の利用

「食品残渣としてのオカラと畜産副産物としての血液の飼料化に関する研究」

麻布大学獣医学部、鎌田技術士事務所、明和学園短期大学

ともに産業廃棄物であるオカラと血液を原料とし血粉オカラを製造し、養豚用飼料に5%添加し、約70kgから出荷までの79日間、肥育した。血粉オカラ添加飼料を給与した豚群は通常の飼料を給与した豚群に比べて、枝肉成績と肉質成績において、ほぼ同様の結果が得られた。また、その食味についても、ほぼ同様の結果が得られた。

「そばくず給与が豚の肉質に及ぼす影響」

岩手県農業研究センター畜産研究所、(独)農・
生研機構東北農業研究センター、山形県農業研
究研修センター畜産研究部

産業廃棄物として処理されていた「そばくず」を25%、
または、50%の割合で飼料に混合し、豚に給与した。そ
ばくずを混合した飼料を給与した豚群は通常の飼料を給
与した豚群に比べて、日増体量、飼料要求率、枝肉格付
けなどにおいて、大きな差は見られなかった。飼料コス
トは、そばくず25%混合で約2割、約50%混合で約4割
の削減となった。また、有意な差ではなかったが、そば
くずを混合した飼料を給与することで、脂肪交雑の度合
いが高くなる傾向が見られた。

○規格外生産物の利用

「色落ち海苔の給与が肥育豚の飼養成績、背脂肪厚の発達お
よび豚肉の抗酸化特性に及ぼす影響」

(独)農・生研機構九州沖縄農業研究センター、
(株)みなまた環境テクノセンター

商品価値の乏しい色落ち海苔を2%添加した飼

料を体重約55kgの豚に給与し、8週間肥育した。肥育前
期では、色落ち海苔添加飼料を給与した豚群は通常の飼
料を給与した豚群に比べて、飼料摂取量は減少したが、
日増体量には差はなく、飼料効率が向上する傾向が見ら
れた。肥育後期では、差は見られなかった。背脂肪厚に
おいては有意な差は見られなかったが、色落ち海苔添加
飼料を給与した豚群の枝肉は、厚脂による格落ちが少な
かった。

○余剰生産物の利用

「飼料米給与豚の肉質についてー肥育豚への飼料米給与の
効果について」

(株)平田牧
場

飼料米を穀類の代替として5%、または、10%添加した

飼料を豚に給与し、出荷までの約2ヶ月間肥育した。飼

料米を10%添加した飼料を給与した豚群は、5%添加し

た豚群に比べて、豚肉の色つや、脂肪の白さが好印象

で、味や総合評価においても良好であり、また、脂肪酸

においてもオレイン酸が多く、リノール酸が少なくなる

傾向にあった。